

析出硬化型合金の製造法

特公・昭37-10901 (公告・昭37-8-13) 発明: 戸田忠俊, 出願: 株式会社日立製作所

傾動する工業窯炉の天井構成方法

特公・昭37-10902 (公告・昭37-8-13) 発明: 磯常和家村巖, 檀上弘行, 出願: 品川白煉瓦株式会社

粉末冶金製法による高透磁率合金

特公・昭37-10903 (公告・昭37-8-13) 出願: 36-2-23, 発明: 堀口米次郎, 的場敏夫, 山口哲郎, 出願: 三菱金属鋳業株式会社

溶鋼の真空精錬における真空容器の**加熱法およびその装置**

特公: 昭37-10904 (公告・昭37-8-13) 出願: 36-5-19, 発明: 相原満寿美, 出願: 八幡製鉄株式会社

高マンガンパーライト可鍛鉄の製造法

特公・昭37-10905 (公告・昭37-8-13) 出願: 35-8-15, 発明: 平松安土, 出願: 旭可鍛鉄株式会社

金属複成分溶接棒

特公・昭37-10909 (公告・昭37-8-13) 出願: 33-10-30, 出願発明: 古川 裕

円錐圧延方法および装置

特公・昭37-10912 (公告・昭37-8-13) 出願: 36-5-4, 優先権: 1960-5-4 (米), 発明: ロバート・アレクサンダア・オネイル, 出願 ロッキード・エアークラフト・コーポレーション

螺旋状の溶接線を有する管の製造装置

特公・昭37-10913 (公告・昭37-8-13) 出願: 36-1-30, 優先権: 1960-1-30 (スイス), 発明: エドアルト・ヴィーグル, 出願: インターコンチネンタル・エンタープライゼス, エリスポート・ウント・インポート・ゲゼルシャフト・ミットベシユレンク・ターハフツング

書 評**「鉄鋼化学分析全書」 新版 日本学術振興会製鋼第19委員会編**

学振製鋼第19委員会では昭和26年「鉄鋼化学分析全書」上下2巻を発行した。これは鉄鋼に関する化学分析方法の操作のすべてを網羅記載し、これに配するに詳細な操作法の解説、関係文献を付したもので、鉄鋼分析に従事する者はもちろん、分析化学の研究者、技術者の座右の書として珍重され、指針となっていたことは周知の通りである。

その後10余年を経たが、この間急速な技術革新の結果、分析化学の分野でも新しい理論、技術、機器が大巾に導入され、面目が一新した観がある。したがって本全書の記述も古めかしくなり、分析作業の指針たり得ない状況となってきた。

このため同委員会の内外から改版の要望が高まり、ついに今回新版が編纂される運びとなつたもので、去る6月第1巻(総論その他)、ついで7月第4巻(炭素以下5成分)が発行された。

新版は全10巻、各巻約300頁、全部で約3000頁の膨大なもので、第1~3巻は総論ともいふべき一般操作、一般分析、各種機器分析法などの基礎的共通事項、第4巻以降は各論に相当する鉄鋼各元素、鋳石、耐火物材料などの分析方法を詳述し、懇切な解説、関係文献を付している。量的にも旧版の約6倍、これだけみても内容がいかに広く、かつ深くなつているか覗うことができるが、既刊第4巻炭素の章を見ても、旧版になかつた中和滴定法、凝縮気化法電気伝導度法、クーロメドリー法、吸光光度法、発光分光分析法など新しい方法がもれなく記載されており、このことが裏付けられている。

執筆者は同委員会第1分科会(分析)の委員および関係者で、深い学識と多年の経験を有する分析専門の研究者および技術者で、これらの人々が各自造詣の深い部門を分担して執筆している。既刊の2冊についてみるに、分担執筆の場合ありがちの欠点、例えば精粗、不統一等は、本全書にもないとはいえないが、各章、各項目とも必要にして十分な記述がなされ、しかも、新しい理論と技術を述べながらも、現場の実際の作業から遊離しない配慮がなされている。

したがって、旧版同様鉄鋼関係の分析に従事する者の指導書として欠くべからざるものと思われる。

(全10巻、各巻約300頁、実価1000~1200円 日刊工業新聞社版)